

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	子どもの意識のベースを探る : 6年生の「おうち」意識・生命体の連続性
Author(s)	柴田, 加枝子; 宮田, 雅智
Citation	児童の言語生態研究 , 16 : 125 - 130
Issue Date	2004-02-10
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045199
Right	
Relation	



子どもの意識のベースを探る

6年生の「おうち」意識・生命体の連続性

■教材『ノンちゃん』石井桃子

柴田 加枝子
宮田 雅智

一、日時

平成十三年度八月七日（火）
午前九時～九時四十五分

二、兒童

新潟県新潟市立割野小学校 六年
柴田加枝子学級（男六名 女五名 計十一名）

三、領域

感情

四、授業テーマ

子どもの意識のベースを探る——六年生の「おうち意識」(生命の連続をどう考えているか)——

五、テーマ設定の理由

我々は、子どもたちが「別の世界」に向かわんとする時に、その起点（もと）となる場所（うち）をどの

ように意識しているのかを探ってきた。その意識とは、つまり、生命体が「休み」「帰る」「場所（うち）」の時間・空間・人間意識のことである。それらを明らかにすることによって、最も根元的な子どもたちの意識のベースを探ることができると考えた。それは子どもたち自身が意識的にせよ無意識的にせよ作り上げてきている世界観を探ることもあった。

だから、もし子どもたちがこの「うち」を忘れたとしたら、人間としての秩序そのものを失い、生命の尊厳も失うことになってしまう。

人の子がこの世に生を受けた時、老若男女様々な異なった者たちがその子の前に現れ、この生命体を守り育てていき、限らない愛情を注ぎ込む。この人間関係は「生命体の連続性」という意識において時間性と不可分である。それが日本人の「筋筋」「家系」「跡継ぎ」に対するこだわりでもあった。

これらの意識は個人を縛るものとして現代では忌み嫌われるものとなってしまった。しかし、それらが太

今回授業を行う割野小学校の子どもたちは三世代・四世代が同居して代々続いてきている家が多数を占めている。子どもたちにとっては核家族の家庭ばかりの地域よりは「生命体の連続性」について実感があると考えられる。しかし我々が本当に語ってほしいのは現象的な家族構成などに伴う意識などではなく、それぞれの子ども達が時間性・空間性のイメージや人間関係意識の中から作り上げる意識世界そのものである。親が子を産み、子がいつの日か親となる。「今」の積み重ねが歴史を作っていく。その永遠の連続が未来をも作っていく。子どもたちが自分の生命を休め、次への力を得る場である「うち」の中で、どのようなイメージ世界での時間の流れに包まれて生きているのかを明

確にしていきたい。

六、指導計画（二時間扱い）

七、本時の目標

今を視点として、生命体の連続意識をとらえたか。

八、本時の展開

学習活動	学習への支援 ※観察の視点
一、本時の学習 ●今日はノンちゃんのお話を読んで、ノンちゃんの心の中を考えてみたいと思います。	●意識のベースを考えることを示唆する。
二、ノンちゃんの話(1)を読む。 ●ノンちゃんの話を読みながら、ノンちゃんの心の中を断続的に追う。 ●「おじいちゃんのおとうさんがどこものころ」おじいちゃんのおとうさんってだれのこと。 ●ひいおじいちゃんいる人。	●ノンちゃんちゃんの話(1)を配布する。 ●黙読をしてから。
●(1)の続きを読む。 「長い果てしない道でした。」ノンちゃん	(夢を見たんじゃないの?) (夢の中でおじいちゃんを

●(2)を読む 「何か(ご)によ(ご)によ」つてなにを見たのでしょうか。	見たかも (生き物がいた) (幽霊) (お化け) (暗いところが好きな生き物) (ひいおじいちゃんを見たのかな)
●(3)を読む ノンちゃんの目についたものは何でしょうか。	(あつ、ひいじいちゃんが見えたんだ) (あつ、ひいばあちゃんも...) ●意識のベースとしての時間軸を子どもたちがどう捉えているかを確かめた。
三、図を作ることによって、生命体の連続性を意識する。 (ノンちゃんを中心にその前後を図にする)	
前 後 曾祖父 祖父 父 ノンちゃん 子 孫 曾孫 ●ノンちゃん以前を考える。ノンちゃん以後を考える。 ●このつながりを示す道は何だろう。	●前後の道を考える。 ●過去と未来が分かるように考える。 (ひいじいちゃんからずっと続いている道) (ノンちゃんの家の人たち全員の道) (家の道)(血筋の道)(命の道) (子孫へと続く道)
四、今とむかしについて考える。	

●(4)を読む ●「むかし」にしめつけられているノンちゃん、何でむかしのことで頭がいっぱいだったのでしょうか。 ●写真を見る 今、この写真はおとうさん、おかあさん、赤ちゃんだね。 この赤ちゃんは二〇〇一年の今、おかあさんです。今は、おじいちゃん、おばあちゃん、おかあさんです。	●生命体の連続を「今」と「むかし」で流動的に捉えられたか。 ●「今」と「むかし」が分かるように。写真をさせる。(実物投影器)
五、まとめ ●(5)を読む 今、みんなは六年生、でもこの今がむかしになるときは、おとうさんやおかあさんになっている時ですね。	●自分の問題として、流動的に時間を考えることができたか。
昔 今 おとうさん 赤ちゃん おかあさん おじいちゃん おばあちゃん	

九 評価

生命体の連続として、今・むかしを流動的に捉えることができたか。

ノンちゃん (1)

ノンちゃんは、小学校の二年生です。

ある晩、ノンちゃんは、寝ながら、お母さんからお話を聞いていました。

「むかし、むかし、あるところにね、……」
と、お母さんは始めました。

けれど、ずっと前もむかしなら、少し前もむかしです。ずっとまえならちゃんまげを結っているけれど、少し前なら結っていません。だから、ノンちゃんは聞きました。

「お母さん、どのくらいむかし。」

お母さんは、すぐ答えてくれました。

「おじいちゃんのおとうさんが、子どものころ。」

そのとき、なんのかげんか、まっ暗い部屋に寝ていたノンちゃんの目の前に、ひとすじの白い光が、さつと流れたのです。それは、ほかの人にわかりやすいいうならば、ノンちゃんを中心にして前後にのびている、長い果てしない道でした。

ノンちゃん (2)

そして、道の一方は、まっ暗いところへ続き、もう一方は、明るい光の中に消えていました。明るい光は、まぶしくて、何も見えません。暗いほうは、暗いのだ

から、なお見えません。ただ、まっ暗くなる少し手前のほの暗いところに、何か
が、ごよごよ、たくさん動いていました。

ノンちゃん (3)

その中に、ちゃんまげに結った小さな子どもがただひとり、地面にしゃがみこむようなかっこうで、余念もなく遊んでいる姿が、これだけははっきり、ノンちゃんの目にうつりました。

ノンちゃん (4)

それが、ノンちゃんの知らない、おじいちゃんのおとうさんの「子どものころ」です。

その晩のお母さんの話は、何だったでしょうか。ノンちゃんは覚えていません。とにかく、ノンちゃんは、お話なんか上の空で、夢中で、「むかし」のことを考えていました。「むかし」がノンちゃんをしめつけました。

ノンちゃん (5)

「むかし」でなく、「今」自分はどうして、おかあさんのお話を聞いている。……なんという不思議なことだろう。おじいちゃんのおとうさんにも、やはり、その人のおかあさんから、このようにしてお話を聞いた「今」が、あったはずです。でも、それは「むかし」に

なっていました。そして、今、ノンちゃんは、こうしておかあさんといいます。けれど、その「今」も、どんどんけて、「むかし」になってしまいます。

いつの間にか、ノンちゃんは、すっかりおかあさんにつかまっていたました。

(石井桃子「ノンちゃん雲にのる」から
授業目的に合わせて改編した)

平成十三年八月七日

授業記録

※教師は実名を漢字で表記し、児童
は仮名をひらがなで表記した。

時間	発言者	内 容
0'	中川	☆開始前 それそれが持参した昔の写真を見せあいながら盛り上がっている。 ●今日の勉強は浮かんだことを話してくれればいいのです。これから「ノンちゃん」というお話をみんなに読んでもらいます。ノンちゃんの心の中味はどんななんだろうということを先生も分からないところがあるから、みんなに教えてもらいたいです。
	小林	〈資料配布〉 〈(1)を読む〉「ノンちゃんは小学校の2年です。…おじいちゃんのお父

14'		13'									
中川	ゆうじ	中川	小林	中川	まみ	中川	まみ	まり	中川	中川	中川
<p>さんが子どもの頃」</p> <p>〔板書〕</p> <ul style="list-style-type: none">● ちよつとストップ。ここ分かるかな。おじいちゃんのお父さんが子どもの頃って。おじいちゃんのお父さんって誰？● ひいおじいちゃん。● ひいおじいちゃん、おうちにいる人いる？● 死んじゃった。ひいおばあちゃんがいる。● ひいおじいちゃんやひいおばあちゃんが子どもの頃って、それが昔々っていつているんだね。 <p>〔続き読む〕</p> <ul style="list-style-type: none">● ノンちゃんを中心に前後に伸びている長い果てしない道って何だろう。 <p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none">● 分かるような気がする。● 分かるような気がする？● 分かるような、分からないような。まだ言えるような状態じゃない。● ノンちゃんを中心に前後に伸びている長い果てしない道っていうのはなんかノンちゃんがどこまでも続く長い道に立っている気がする。 <p>〔板書〕</p> <ul style="list-style-type: none">● こんなふうに長い道があったら、ここにノンちゃんが立っているよ。											
19'		18'		17'		16'					
ゆうじ	中川	ゆうじ	中川	ゆうじ	柴田	中川	柴田	中川	中川	中川	中川
<p>うな気がする。</p> <p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none">● 一筋の白い光とか書いてあるよ。 <p>〔間〕</p> <ul style="list-style-type: none">● 次、いつてみようね。 <p>〔配布〕</p> <p>〔2〕を読む〕「そして道の一方は…何かがごによごによたくさん動いていました。」</p> <ul style="list-style-type: none">● えっ。こえー。● (ざわざわする。)● 何だよ、これ。● 何か、お化けみたい。● お化け。出た。何のお化けだろう。● ゴキブリ。ジョーク、ジョーク。● ひできさん、どう？● 分かりません。● ネズミ？● 何か、動いているっていうから生き物みたいに思っているのかな。でも、お化け。● 何のお化けだよ。ひいじいちゃんやひいばあちゃんのお化け。 <p>〔板書〕</p> <ul style="list-style-type: none">● 何が動いているんだろう。 <p>〔3〕を読む〕「その中にちょんまげに結った…」</p> <ul style="list-style-type: none">● ノンちゃんの目に映ったものって何だろうね。● ちょんまげに結ったってのがわか											
34'											
中川	小林	中川	ゆうや	ゆうじ	ゆうや	中川	まり	中川	まり	中川	中川
<p>〔ゆうやの代弁〕</p> <ul style="list-style-type: none">● ちょんまげって知っているかな。お相撲さんの頭にのつかっている。ちょんまげに自分の髪を結っている。● ちよつとちょんまげに結つてみようか。● これはずつともぐつてもらおうか。地下に。これはずつと上に上がつてもらおうか。● 意味分らない。● そうするとだんだん天国に行く。下は地獄か。● ノンちゃんを中心にしてひじひじいちゃん、ひいじいちゃん、じいちゃん、お父さん、ノンちゃん、孫、ひ孫、ひひ孫とさつきいつていた一本の長い道っていったい何なんだろう。ちよつと6年生らしくなつてきたね。● 家系図。家系図っぽいやつ。何代目とか。● 家系図。家系の系、何が系になっているんだろう。● 家系図の系って一本の筋だよ。この筋って何。● 一番最初に出てきた一筋の白い光が筋になっている。● もう一息。この光の白い筋っていうのはひいじいちゃんにもじいちゃんにもお父さんにもノンちゃんにも											

56'											52'
中川	小林		中川	小林	まり	中川	子ども	中川	まり	中川	
● さあ、何で母さんにつかまって	● (5)を読む「昔でなく今。自分は：」	● これが最後だね。	● 今が昔。 大昔。 超大昔。 だんだんちよつと分かったような気がするね。	● 今が昔。 昔はかなり昔。 超大昔。	● 2010年になってしまえばこれがまた今が昔になる。	● かなり昔。 大昔。 超大昔。	● 今が昔。 昔はかなり昔。 超大昔。 だんだんちよつと分かったような気がするね。	● 今が昔。 大昔。 超大昔。	● 今が昔。 大昔。 超大昔。	● 今が昔。 大昔。 超大昔。	

58'									
中川	まり	子ども	中川	まり	中川	かなえ	中川	中川	まり
● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう	● おうちの中がこういうふう

		中川	子ども	難波
		● あいさつが終わったら今の写真を撮りたいと思います。	● (並びながら) これも何十年もたったら昔の写真になるのかな……(等々のおしゃべり)	● お疲れさまでした。みんなおうちにおじいさんとかおばあさんは身近ですよね。僕の家は都会だったから、こういう写真をあまり持っていないくて、みんなもっているんだよね。それってすごい。もしかししたら幸せなことも知れないよ。こういう授業を素直に受け止められるというのはすごく幸せなところにいるなあと思うけど、ここにいとあんまり分らないんだよね。